【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

様式1（小・中）

学校名	白石町立白石小学校

1　前年度 評価結果の概要	・一人一台の学習者用端末の活用については、全職員で研修を行い、授業活用のスキルアップを図った。次年度も、引き続き活用し、全職員のスキル維持、さらなるスキルアップを図っていく。また、家庭へ持ち帰る頻度も増やし、家庭学習での有効活用を検討していく必要がある。同時に、正しい活用ができるように、情報モラル教育の充実も図っていかなければならない。 ・算数科の校内研究を中心として、児童の学力向上を目指し、研修を深めてきた。学習状況調査が県平均を上回る結果であったが、今後も知識・技能を確実に身に付けさせ、児童同士の対話を活性化し、深い学びとなるようにさらに授業力向上に努めていく必要がある。 ・常に新型コロナウイルスの感染拡大防止を意識し、全職員で日々感染対策を行ってきた。すべきことを確認し合い、情報共有し、児童の安心・安全な学校生活を保つことができた。今後も、安心・安全な学校生活の保持のため、心身を強く、たくましく育む教育に取り組んでいく。
2　学校教育目標	**心豊かに、創造性を発揮し、たくましく生きる子どもの育成** **～幸せいっぱい　白石小学校～**
3　本年度の重点目標	①一人一台の学習者用端末の学校内外での活用推進を図る。 ②算数科の校内研究を中心とした授業力向上に努め、児童の学力向上を図る。 ③新型コロナウイルスや自然災害等から身を守るための指導を行い、健康で安心・安全な学校・家庭生活を推進する。

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果
●学力の向上	○校内研究の充実	○（学校独自成果指標・任意） 自分の考えをもち、課題解決をしていこうとする児童が80%以上	・児童が自分なりの方法をとりながら、考えをもって課題解決できるよう、手立てをとって授業を行う。	B	・職員アンケートにおいて、「児童が自分なりの方法をとりながら、考えをもって課題解決できるように手立てをとる」ことができた職員が85.7%で、意識をもちながら授業を行うことができた。その中で、児童アンケートで「自分の考えを書いたり話したりすることができた」と93.1%の児童が回答し、目標を達成することができた。 ・2回目の算数アンケートでの実態把握と分析を行い、よりよい授業実践につなげていく。	A	・全学級で研究授業及び授業研究会を行い、自分の考えをもち課題解決ができるための「手立て」について協議し、よりよい授業実践ができるようにした。 ・算数アンケートにおいて、「学んだことやヒントを使いながら問題をいっしょうけんめいに解こうとしている」児童が93%、「分からないときは友達や先生に気軽に聞いている」児童が85%となり、目標を達成することができた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童・保護者が80%以上	・ふれあい道徳を実施し、全学級で授業を公開する。 ・授業後、ワークシートに振り返りや感想を書かせ、学級通信等で保護者に知らせる。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒が90.3%、保護者が97.5%だった。 ・人権集会を開き、「なかよし合い言葉」の発表、講話などで人権意識をたかめることができた。 ・保護者や地域の方が参画したふれあい道徳を実施した。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒が90.1%、保護者が97.5%だった。 ・道徳の授業の中で、自分の考えを発表できたと答えた児童が77.9%だった。今後の課題である。 ・授業参観でふれあい道徳を実施し、全学級で授業を公開することができた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員が80%以上 ○いじめ等の対応や指導を適切に行っていると答える保護者が80%以上	・毎月「心のカード」を実施する。 ・人権集会（教室）を計画的に実施する。 ・気になる児童については、毎週水曜日の職員連絡会で共通理解し、対応策について協議する。	A	・毎月「心のカード」を実施し、児童の実態把握に努めるとともに、必要に応じて聞き取りや事実確認を行うことで指導に役立てた。教員の好意的評価で93%であった。 ・人権週間では、お互いを認め合う仲間づくりや授業実践、人権標語やなかよし合言葉、ぽかぽかツリーの取組を通して、児童の人権意識を高めることができた。 ・毎週水曜日の職員連絡会で「気になる児童についての共通理解」の時間をとり、情報を共有し、対応策についても協議することができた。保護者の好意的評価は97%であった。	A	・毎月「心のカード」を実施し、児童の実態把握に努め、いじめの早期発見や早期対応も組織的に行うことができた。いじめ防止等の対応や指導ができていると回答した教職員が好意的評価で92.8%、保護者が96.7%であった。 ・人権週間では、お互いを認め合う仲間づくりや授業実践、人権標語やなかよし合言葉、ぽかぽかツリーなどの取組を通して、児童の人権意識を高めることができた。職員の好意的評価は92.9%であった。 ・毎週水曜日の職員連絡会で「気になる児童の共通理解」の時間をとり、対応策を協議することができた。
	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が80%以上	・自分の目標や将来の夢について考える機会を授業の中に設定する。 ・地域の方や様々な専門家の話を聞く機会を設ける。	A	・道徳や学級活動の時間等を活用し、将来への夢や希望について考える場を設定するように心がけている。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が92.6%。 ・サッカー、バスケット、バレーなどプロの選手による教室を開いたり、科学教室を設定するなど、外部との講師と関わる機会を多く設けた。	A	・今年度はプロの選手によるスポーツ教室を開いたり科学教室を実施したりしたことで、自分の目標や将来の夢について考える機会を多くもつことができた。 ・6年生ではスクールカウンセラーの先生から「心の授業」をしてもらうことで中学校へ進学したときの人との関わり方について学ぶことができた。 ・4年生は10歳を祝う会に向けて準備などの活動を通して、将来のことについて見通しをもって活動できた。
●健康・体つくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○各学年の目標就寝時間までに寝る児童 　70%以上 ○朝食をとる児童90%以上 ○1日3回歯磨きをする児童80%以上	・9月と1月に「はなまるすこやかチェック」を実施し、1週間、就寝時刻、朝ごはん、歯みがき、ゲームの時間等について振り返らせる。 ・実施前に保健指導を行い、目標を立てさせる。 ・保護者と連携し、生活の改善につなげる。	A	・はなまるすこやかチェック週間の事前指導として、各学年「早起き」と「睡眠」について指導を行い、児童の意識を高めた。9月のはなまるチェックの達成率は、「目標睡眠時間までに寝る」は72．4%、「朝食をとる」は98%、「歯磨きをする」は85．9%で、目標を達成することができた。 ・はなまるチェック週間は保護者の方も目標達成のために児童に声かけをしていただいていることが、保護者からの一言の欄から知ることができた。このチェック週間だけではなく、普段の生活も整えようと言う一言が多く見られた。	A	・1月のはなまるすこやかチェック週間に取り組むにあたり、 9月のチェック表を見直させ、どの項目ができていなかったか1月の重点目標は何にすればよいのか、各自考えさせた。 児童はそれぞれに振り返りを行い、自分にあった目標を立てていた。1月の達成率は、「目標睡眠時間までに寝る」は72．2%、「朝食をとる」は98。6%、「歯磨きをする」は88．5%で、目標を達成することができた。 ・保護者の方も一緒に取り組んでもらった家庭もあり、朝ごはんの内容をもっと頑張りますや、家族みんなで早く寝るようにしようなどの一言が見られた。
	○運動習慣の改善と体力づくり	○週に3日以上出て遊んだり、スポーツをしたりした児童が80%以上 ○外遊びのための具体的な方策を考えている児童が80%以上	・委員会が運動遊びの内容を決定し、イベントの運営・企画をする。 ・外遊びウィーク（12月）を設定し、外遊びを推奨する。 ・持久走週間やなわとび月間など定期的に取り組む。	A	・学校全体として約75%の児童が週3回外で体を動かすことができていた。しかし、高学年になるにつれて外で遊ぶ児童が減ってきているので、今後も体を動かす活動を作っていく必要がある。 ・体力作り週間では、運動場に出て、走ったり、歩いたりして自分の体調に合わせて取り組めた。 ・「学校は、子どもたちの体づくりに努めている。」について肯定的な回答をした保護者97.5%。後期は、寒さも増してくるが、一層体力向上に努めさせていく。	A	・委員会による外遊びウィークや長縄とび月間など運動をする機会を設定したり、教師が外遊びを推奨し声かけを続けたりすることによって、体を動かすことの充実を実感している児童が増えた。 ・「学校は、子どもたちの体づくりに努めている。」について肯定的な回答をした保護者97.5%、児童は天気のよい日は朝から外遊びを楽しむことができていた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外勤務時間の職員の1ヶ月平均が45時間以下	・毎週金曜日を定時退勤推進日とし、掲示板に掲げたり、個別に声掛けをしたりする。 ・毎月、自分の勤務状況を把握し、各自でタイムマネジメントしていく。	A	・4月～10月の7ヶ月間において、1ヶ月平均は45時間以下であった。一番多い月で4月の34：11。少ない月は8月の4：29。7ヶ月間の平均は25：47。引き続き、45時間を超えない勤務時間となるように、声掛けを続けていく。	A	・11月～2月の10ヶ月間における時間外自発勤務の平均時間は24：12であった。1ヶ月平均45時間以下を達成できた。教頭の方で、出退勤表に45時間が近づくと色が変わるエクセルシートを作成したり、個人の月ごとの集計結果（1ヶ月合計、2ヶ月平均、3ヶ月平均、・・・6ヶ月平均）を各自確認したりした。また、超勤気味の職員に対しては、曜日を設定し、見通しをもった業務を遂行するよう働きかけた。
	○学校組織、教職員集団としての働きやすい雰囲気づくり	○一人で抱え込まず、気軽に情報交換や相談ができる職場だと思える職員80%以上	・情報を共有する場を設定する。（週に1回の連絡会） ・ストレスチェックを行い、各自の心の状態を把握する。 ・職員同士が気軽に話せる時間を設定する。 （各学期に1回程度）	A	・放課後の時間などを利用し、学級運営で困っていることや気になることを情報交換することができた。 ・9月頃に行ったストレスチェックで、各自心の状態を把握することができた。 ・一人で抱え込まず、気軽に情報交換や相談ができた職員が、99.7%。限られた時間ではあるが、放課後の時間などを利用し、親和的な場を設けていることができている。	A	・学級経営で気になっていることについて情報を共有したり、困っていることはすぐにメンターや管理職に相談したりして、一人で抱え込むことがないよう学校全体で取り組むことができた。 ・ストレスチェックを行い、各自の心の状態を把握することができた。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果
○ICT利活用教育	○一人一台の学習者用端末の学校内外での活用推進	○学習者用端末の有効な活用法を熟知している教師が80%以上 ○学習者用端末を活用して主体的に学習することができる児童80%以上	・校内研修で学習者用端末の活用法を提案する。 ・授業の中で学習者用端末の活用場面を仕組む。	A	・「ICT機器等を使った表現活動に取り組ませ、情報発信や表現のためのツールとしての活用を積極的に図ることができた。」と肯定的に回答した職員が、64.3%。校内研究に係る授業では、汎用性のある実践を紹介した。校内研などを積極的に活用し、ICT利活用の各授業実践を一層蓄積させていく。 ・出欠確認をスプレッドシートで行うシステムを提案し、業務を改善することができた。	A	・今年度、担当が行った学習者用端末を用いた授業実践を20例以上紹介することができた。 ・授業参観でもリモートで児童に参加させる場面を見せたり、プログラミングの実践を見せたりするなど様々な場面で実践を示すことができた。 ・日程調整をFormとスプレッドシートで行ったり、出張後の連絡をFormで済ませたりするなど、DX化を進めつつ教職員のICT利活用が進む環境を作ることができた。
○図書館教育	○読書活動の充実	○年間読書100冊に達した児童が90%以上	・多読賞や読書マスターの表彰、「100冊達成の掲示」を継続する。 ・図書館イベントの開催や公共図書館との連携、家読の推進、学校の読書活動のお知らせを図書館便りで伝えることで、多くの本と出会う機会を作る。	B	・多読賞や読書マスターの表彰、「100冊達成の掲示」を継続して行った。 ・図書館まつりや公共図書館との連携、家読の推進、学校の読書活動のお知らせを図書館便りで伝え、多くの本と出会う機会を作ることができた。 ・11月末で100冊達成者は155人（92.8%）であった。	A	・多読賞や読書マスターの表彰、「100冊達成の掲示」を継続して行い、読書意欲を高めることができた。 ・図書館まつりや公共図書館との連携、家読の推進、学校の読書活動のお知らせを図書館便りで伝え、多くの本と出会う機会を作ることができた。 ・100冊達成者は163人（97.6%）であった。
○安全教育	○危機対応力の育成	○「学校は防災や不審者侵入などの対策ができている。」と答えた保護者が80%以上	・年3回の避難訓練を実施し、職員・児童の危機対応力を高める。 ・月１回の安全点検を確実に遂行する。	A	・不審者対応及び火災時の避難訓練を計画通りに実施することで、職員・児童の危機対応力を高めることができた。　保護者の好意的評価は94%であった。 ・月１回の安全点検を確実に遂行できている。	A	・年3回の避難訓練（不審者、火災、地震）の避難訓練を計画通りに実施し、職員及び児童の危機対応力を高めることができた。保護者の好意的評価は94%、職員の好意的評価は100%であった。 ・月１回の安全点検を確実に遂行することで、校内の安全管理に努めた。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ICT利活用については、Meetを活用した遠隔授業、Jamboardを活用した考え・作品の共有、Formsを活用したアンケート集計など様々な場面で有効活用することができ、校内研で互いの利活用を共有し合うことができた。次年度も、引き続き活用し、全職員のスキル維持、さらなるスキルアップを図っていく。同時に、家庭でのスマホ・SNS等の利用における課題が生じた。正しい活用ができるように、家庭を巻き込んだ『情報モラル教育の充実』を一層図っていかなければならない。 ・算数科の校内研究を中心として、一人一台の学習者用端末を活用しながら、児童の学力向上を目指し、研修を深めてきた。学習状況調査が県平均を上回る結果であったが、個別の支援を充実させながら対話活動を充実させ、深い学びへ誘うことが今後求められる。 ・全職員で日々感染対策、危機管理を行ってきた。すべきことを確認し合い、情報共有し、児童の安心・安全な学校生活を保つことができた。今後も、安心・安全な学校生活の保持のため、心身を強く、たくましく育む教育、ならびに危機管理の徹底を図っていく。